

どんな時にも冷静さを保ち、エホバと組織を信頼する

「どんな場合にも冷静さを保ち.....なさい」。 [テモテ第二 4:5](#), 脚注

[123 番の歌](#) 神の秩序にいつでも従う

何を学ぶか *エホバと組織への信頼が特に試されるのは、会衆内で問題にぶつかる時です。この記事では、そうした問題のうち3つを取り上げます。そして、エホバと組織を信頼し続けるためにどんなことができるかも考えます。

1. 冷静さを保つとはどういうことですか。 ([テモテ第二 4:5](#), 脚注)

気持ちを乱されるような状況にぶつかると、エホバや組織への信頼を試されることがあります。そうした状況を乗り越えるために、どんなことができるでしょうか。冷静さを保ち、目を覚ましていて、信仰を持ってしっかり立つことが必要です。 ([テモテ第二 4:5](#) しかしあなたは、どんな場合にも頭がさえた状態(*鋭敏な感覚/冷静さ)を保ち、苦しみに耐え、福音伝道者として働き(*良い知らせを伝え続け)、自分の奉仕を十分に行いなさいと 1 番目の脚注を読む。) 冷静さを保つ人は、穏やかでいることができ、物事を筋道立てて考えます。また、エホバと同じ見方ができるように努力します。それで、感情に流されることはありません。

2. この記事ではどんなことを考えますか。

2 前の記事では、エホバへの信頼を試す状況のうち、会衆の外から来るものについて3つ取り上げました。この記事では、会衆内で生じるかもしれない状況を3つ考えます。(1) 仲間から傷つけられたと感じる時、(2) 矯正を受ける時、(3) 組織の中での変更についていくのを難しく感じる時です。こうした状況にぶつかる場合、どうすれば冷静さを保ち、エホバと組織を心から信頼し続けることができるでしょうか。

仲間から傷つけられたと感じる時

3. 仲間から傷つけられたように感じる時、どう思うかもしれませんか。

3 あなたは、仲間から傷つけられたように感じたことがありますか。その相手は、長老などの責任を委ねられている兄弟だったかもしれません。きっとその兄弟は、あなたを傷つけるつもりはなかったことでしょう。 ([ロマ 3:23](#) 全ての人は罪人(「罪」と訳されるヘブライ語とギリシャ語の言葉は、目標や的を「外す」ことを意味している。いわゆる犯罪にとどまらず、正しさに関する神の基準から外れたあらゆる事柄が含まれる。聖書にある通り、最初の人間が神に逆らって罪を負ったため、全ての人間は生まれながらに罪を受け継いでいる)になったので、神の栄光に達することができません(*神の栄光を完全には反映できません)。 [ヤコ 3:2](#) 私たちは皆、何度も過ちを犯し(d*つまずき)ます。言葉で過ちを犯さない(d*つまずかない)人がいれば、それは完全な人で、体全体を制御できます) でも、あなたは傷つき、そのことについて考えて夜も眠れなかったか

もしれません。「兄弟があんなことをするなんて、これは本当に神の組織なんだろうか」とさえ思ったかもしれません。でも、そうした考え方をするなら、サタンの思うつぼです。(コリニ 2:11 私たちがサタンに付け込まれない(*だまされない)ようにするためです。私たちはサタンの手口(*策略/意図)を知らないわけではありません) エホバや組織から離れてしまうことになるかもしれません。では、兄弟姉妹から傷つけられたように感じる場合、どうすれば冷静さを保ち、ふさわしくない考え方を避けることができるでしょうか。

4. ヨセフがひどい仕打ちを受けても冷静さを保てたのはなぜですか。ヨセフの例から何を学べますか。(創世記 50:19-21)

4 腹を立ててはいけません。ヨセフは10代の頃、兄たちからひどい仕打ちを受けました。兄たちはヨセフのことを嫌っていて、中には、殺してやりたいと思っている人さえいました。(創 37:4 兄弟たちは自分たちよりヨセフの方が父に愛されているのを知って、ヨセフを憎むようになり、ヨセフと穏やかに話すことができなかった、18-22 兄弟たちは遠くにヨセフを見掛けた。ヨセフがまだ近くに來ないうちに、彼らはヨセフを殺そうとたくらみ始めた。19 こう言い合った。「見ろ、あの夢見る方がやって来るぞ。20 さあ、あいつを殺してどこかの貯水穴に投げ込んでやろう。どう猛な野獣に食い殺されたと言えればいい。あいつの夢がどうなるか、見てやろうじゃないか」。21 ルベンはこの聞き、ヨセフを助けようとして、「命を奪うのはやめよう」と言った。22 ルベンはさらに言った。「殺してはいけません。荒野のこの貯水穴に投げ落とすといい。でも危害を加えてはいけません」。ヨセフを助け出して父の所に帰らせようとしていたのである) やがて兄たちは、ヨセフを奴隷として売り飛ばしてしまいます。その結果、ヨセフはその後13年もの間、とてもつらい経験をしました。それで、「自分はエホバに愛されていない」とか、「エホバから見捨てられた」と考えてもおかしくありませんでした。それでも腹を立てるのではなく、冷静さを保ちました。兄たちに仕返しをするチャンスもありましたが、そうするのではなく、兄たちに愛を示して許しました。(創 45:4, 5 ヨセフは言った。「どうぞ、そばにきてください」。彼らはそばに寄った。ヨセフは言った。「私は弟のヨセフです。皆さんは私をエジプトに売りました。5 しかし今は、私を売ったことで心を痛めたり、互いに責め合ったりはしないでください。皆さんが生き続けられるよう、神が私を先に遣わしたのです) そうすることができたのは、ヨセフが物事を筋道立てて考えていたからです。ヨセフは自分のつらい状況のことばかり考えるのではなく、エホバがどんなことを望んでいるのかについてよく考えました。(創世記 50:19-21 ヨセフは言った。「恐れなくてください。私が神だともいうのでしょうか。20 皆さんは私に対して悪いことをたくらみましたが、神はそれを良いことにつなげて、多くの人が生き延びられるようにしようと考えました。そして今、実際にそうなっています。21 ですから恐れなくてください。私はこれからも皆さんと小さな子供たちに食物を供給します」。このようにヨセフは兄弟たちを安心させ、優しく話したを読む。) 何を学べますか。誰かからひどい仕打ちを受けるとしても、エホバに対して腹を立てたり、エホバから見捨てられたと考えたりしてはいけません。つらい状況の中でエホバがどのように助けてくださっているかを考えるようにしましょう。そして、仲間の不完全さを愛で覆うようにしましょう。(ペテ 4:8 何よりも、熱烈に愛し合ってください。愛は多くの罪を覆う(*愛があれば多くの罪を許せる)からです)

5. ミケイアス兄弟はひどいことをされたと感じた時、どのようにして冷静さを保ちましたか。

5 現代の例を考えてみましょう。南アメリカで長老として奉仕しているミケイアス兄弟は、責任を委ねられている兄弟たちからとてもひどいことをされたように感じました。*一部の名前は変えて

あります。その時のことについて、兄弟はこう言います。「それまでに経験したことがないほどのストレスを感じ、とても怖くなりました。夜も眠れず、自分にできることは何もないと感じて涙があふれてきました」。でも、兄弟は冷静さを保ち、感情に流されないようにしました。聖なる力や忍耐するための力を求めて、何度も何度もエホバに祈りました。そして、出版物を調べて、助けになりそうな資料を探しました。兄弟の手本からどんなことを学べるでしょうか。兄弟や姉妹からひどいことをされたと感じるとしても、穏やかでいるようにし、良くない考え方に負けないようにしましょう。私たちは、兄弟姉妹がどうしてそんなことを言ったりしたりしたのかを必ずしも知っているわけではありません。それで、相手の立場に立って考えられるように助けてください、と祈りましょう。そうすれば、きっと悪気はなかったのだと考えて、仲間を許すことができるようになるでしょう。（格 19:11 洞察力があればすぐに怒ることはない。過ち(*違反)を見過ごす(d*通り過ぎる)人は美しい）エホバは私たちの状況をよくご存じで、忍耐できるようにしてくださいませ。（代二 16:9 エホバは、心の全てがご自分に向いている人の力(*支え)になろうとして、世界中に目を行き届かせています。今回の件であなたは愚かなことをしました。これからあなたに対する戦争があります」。伝 5:8 もし、貧しい人が虐げられ、辺りで公正や正義が侵されているのを見ても、そのことで当惑してはならない。高官は、さらに位の高い者の監視下にあり、その位の高い者の上にはさらに位の高い者がいるからだ）

矯正を受ける時

6. エホバが愛の気持ちから矯正を与えてくださるということを覚えておくのが大切なのはなぜですか。（ヘブライ 12:5, 6, 11）

6 矯正を受けると、つらく感じるものです。でも、つらい気持ちにとらわれていると、その矯正を軽く見て、「自分には当てはまらない」とか「厳しすぎる」と考えるようになるかもしれません。そして、エホバが愛の気持ちから矯正を与えてくださっている、という大事なことが見えなくなってしまう。（ヘブライ 12:5, 6）そして、皆さんに子と呼び掛けている次の言葉をすっかり忘れてしまっています。「わが子よ、エホバ(*)からの矯正を軽く見てはならない。神に正されるとき、諦めてはならない。6 エホバ(*)は愛する人を矯正するからだ。ご自分が子として迎え入れる人を皆むち打つ(*罰する)のである」、11 確かに、どんな矯正も、その時は喜ばしいものに思えず、痛みを伴います(*耐え難いものです)。しかし後に、それによって訓練された人は平和を味わい(d*平和な実を結び)ます。正しく生きられるようになるのですを読む。) また、感情に流されるままにするなら、付け込む隙をサタンに与えてしまうことになります。サタンは、私たちが矯正を受け入れず、さらにはエホバや会衆から離れていくことを願っています。では、矯正を受けた時にも、どうすれば冷静さを保つことができるでしょうか。



ペテロは謙遜に助言と矯正を受け入れたので、エホバのためにいっそう多くのことを行えるようになった。（7節を参照。）

7. (ア) 挿絵から分かる通り、ペテロは矯正を受け入れた後、エホバからどんな務めを委ねられましたか。(イ) ペテロの例からどんなことを学べますか。

7 矯正を受け入れ、改善する。(ア) イエスはペテロに対して、ほかの使徒たちの前で矯正を与えたことが何度かありました。(マル 8:33 イエスは向きを変え、弟子たちを見ながらペテロを叱り、「私の後ろに下がれ、サタン! あなたは、神の考えではなく、人間の考えを抱いています」と言った。ルカ 22:31-34 シモン、シモン! サタンはあなたたちを渡すよう要求しました。小麦をふるいにかけるように試すためです。32 しかし私は、あなたの信仰が尽きないように祈願しました。立ち直った後は、兄弟たちを力づけなさい」。33 ペテロは言った。「主よ、私はあなたと牢屋に入ることも死ぬことも覚悟しています」。34 しかしイエスは言った。「ペテロ、あなたに言います。今日おんどりが鳴くまでの間に、あなたは3度、私を知っていることを否定します」) これはペテロにとって、とても恥ずかしい思いをする経験でした。それでもペテロは、イエスに従うのをやめることなく、矯正を受け入れ、自分の失敗から学びました。エホバはそのようなペテロに報いを与え、会衆での大きな責任を委ねました。(ヨハ 21:15-17 弟子たちが朝食を終えると、イエスはシモン・ペテロに言った。「ヨハネの子シモン、これら以上に私を愛していますか」。ペテロは答えた。「はい、主よ、私があなたに愛情を抱いていることをあなたは知っています」。イエスは言った。「私の子羊を養いなさい」。16 また2度目に、「ヨハネの子シモン、私を愛していますか」と言った。ペテロは答えた。「はい、主よ、私があなたに愛情を抱いていることをあなたは知っています」。イエスは言った。「私の小さな羊を世話なさい」。17 そして3度目に、「ヨハネの子シモン、私に愛情を抱いていますか」と言った。3度目に、「私に愛情を抱いていますか」と言われ、ペテロは悲しくなって、こう言った。「主よ、あなたは全て分かっています。私があなたに愛情を抱いていることを知っています」。イエスは言った。「私の小さな羊を養いなさい。使徒 10:24-33 その翌日、ペテロはカエサレアに入った。コルネリオは待ち受けていて、親族や親しい友人たちを呼び集めていた。25 ペテロが入ると、コルネリオは出迎え、その足元にひれ伏して敬意を表した。26 しかし、ペテロはコルネリオを起き上がらせて言った。「立ってください。私も人間です」。27 そして語り合いながら中に入ると、大勢の人が集まっていた。28 ペテロは言った。「よくご存じの通り、ユダヤ人にとって、別の人種の人と交友を持ったりそのもとを訪れたりするのは許されないことです。しかし神は、誰のことも汚れているとか清くないとか言ってはならないことを私に示しました。29 それで呼ばれた時、迷わずに来たのです。教えてください、私を呼んだのはなぜですか」。30 コルネリオは言った。「4日前の今ごろ、午後3時に家で祈っていました。すると、輝く衣服を着た人が私の前に立って、31 こう言いました。『コルネリオ、神はあなたの祈りを聞いており、憐れみの施しを覚えています。32 ですから、ヨッパに人を遣わして、ペテロと呼ばれるシモンという人を呼びなさい。この人は、海辺にある、皮なめし職人シモンの家に泊まっています』。33 それで私はすぐあなたのもとに人を遣わしました。よく来てくださいました。今、私たちは皆、あなたが話すようにとエホバが命じた事柄を、全て聞くために神の前にいます」。ペテ 1:1 イエス・キリストの使徒ペテロから、ポントス、ガラテア、カパドキア、アジア、ビチニアに散っている、一時的居住者である選ばれた人たちへ) (イ) ここからどんなことを学べますか。矯正を受けた時には、恥ずかしい気持ちにとらわれるのではなく、それを受け入れ、改善しましょう。そうするなら、自分のためにもほかの人のためにもなります。そして、エホバや仲間のためにいっそう多くのことを行えるようになるでしょう。

8-9. 矯正を受けたベルナルド兄弟は、①初めはどう感じましたか。②考え方を改める上で、どんなことが助けになりましたか。

8 モザンビークのベルナルド兄弟の例を考えてみましょう。兄弟は、長老として奉仕する機会を失いました。初めはどう感じていたのでしょうか。①「その矯正が気に入らなかったもので、とても腹が立ちました」と言っています。兄弟は、会衆の人たちからどう思われるかを気にしていました。そして、こうも言っています。「矯正に対して正しい見方をし、エホバや組織をもう一度信頼できるようになるまでには、何カ月かかりました」。では、兄弟はどのようにして正しい見方を取り戻したのでしょうか。

9 ②ベルナルド兄弟は考え方を改めました。こう言っています。「長老として奉仕していた時、ヘブライ 12 章 7 節皆さんは矯正(*訓練)の一環として忍耐する必要があります。神は皆さんを子として扱っています。父親から矯正を受けない子がいるでしょうか」を使って、他の人がエホバからの矯正に対する正しい見方を持てるよう助けていました。それで、こう考えました。『この聖句を当てはめる必要があるのは誰だろう。エホバに仕えている人全員だ。それには私も含まれている』。また兄弟は、エホバと組織への信頼を取り戻すために、別の点でも努力しました。聖書を読んでじっくり考える時間を増やしました。兄弟姉妹からどう見られているかが気になりましたが、一緒に伝道し、集会でコメントするようにしました。やがて、兄弟は再び長老に任命されました。私たちも矯正を受けた時には、ベルナルド兄弟のように恥ずかしさを乗り越え、助言を受け入れ、改善しましょう。*「[「ものみの塔」2009 年 8 月 15 日号 30 ページ](#)の「以前の奉仕の立場で再び仕えることができますか」という記事にも、役立つアドバイスが載せられています（[格 8:33](#) 指導を受け入れて(d*聞いて)、賢くなれ。それを軽視してはならない;[22:4](#) 謙遜さとエホバへの畏れがもたらすのは、富と栄光と命である) そうするなら、エホバと組織を心から信頼し続けることができ、エホバは必ず祝福してくださるでしょう。

組織の中での変更についていくのを難しく感じる時

10. 古代イスラエルにおいて、エホバに対する人々の信頼はどんなことによって試されたかかもしれませんか。

10 組織の中での変更によって、エホバと組織への信頼が試されるかもしれません。注意していないと、エホバから引き離されてしまうことさえあります。モーセの律法によって生じた変化から古代のイスラエル人がどんな影響を受けたか、考えてみましょう。律法が与えられる前は、家族の頭が祭司の役目を果たし、家族のために祭壇を作り、エホバへの犠牲を捧げていました。（[創 8:20, 21](#)）それからノアはエホバのために祭壇を作り、清い動物と清い飛ぶ生き物の幾らかを祭壇に載せ、全焼の捧げ物にした。21 エホバは心地よい(*安らぎの)香りを嗅ぎ始めた。それでエホバは心の中でこう言った。「私は二度と、人がしたことを理由に地面に災いを下したりはしない。人の考え方は子供の時から悪いのである。私は二度と、今回のように全ての生きているものを滅ぼすことはしない」;[12:7](#) エホバがアブラムに現れて、こう言った。「私はこの地方をあなたの子孫(d*種)に与えよう」。それでアブラムは、自分に現れたエホバのためにそこに祭壇を作った;[26:25](#) それでイサクはそこに祭壇を作ってエホバの名を呼んだ(*賛美した)。イサクはそこに天幕を張り、召し使いたちは井戸を掘った;[35:1](#) その後、神はヤコブに言った。「立ってベテルに行き、そこに住みなさい。そして、あなたが兄エサウから逃げていた時にあなたに現れた真の神のため、そこに祭壇を作りなさい」,[6, 7](#) ヤコブの一行はやがて、カナン地方のルズつまりベテルに着いた。7 ヤコブはそこに祭壇を作り、その場所をエル・ベテル(意味:ベテルの神)と呼んだ。以前、彼が兄から逃げていた時、そこで真の神が彼に姿を見せたからだった。[ヨブ 1:5](#) 一連の宴

会が終わるたびに、ヨブは子供たちを呼び寄せ、神聖なもの(*神から見て清い者)とした。朝早く起きて、一人一人のために全焼の犠牲を捧げた。「子供たちが罪を犯し、心の中で神を侮辱したかもしれない」と考えてのことだった。ヨブはいつもそのようにしていた)しかし、律法が与えられた後、家族の頭はこの特別な務めを果たすことができなくなりました。エホバは、アロンの家系の者が祭司として犠牲を捧げるよう取り決めたからです。もし家族の頭が、アロンの家系の者ではないのに祭司として行動したなら、死刑になりました。*律法の規定によると、家族の頭は食用として家畜を殺す場合、その動物を聖なる所に連れていかなければなりませんでした。とはいえ、聖なる所から大変離れた場所に住んでいるなら、そうする必要はありませんでした。(申 12:21 食べたい時に町の中で食べなさい) (レビ 17:3-6 イスラエルの民の誰かが、雄牛、若い雄羊、ヤギを宿営の中で、あるいは宿営の外でほふるなら、4 エホバの幕屋の前でエホバへの捧げ物として差し出すためにそれを会見の天幕の入り口に持ってこないでそうするなら、その人は流血の罪があると見なされる。その人は血を流した。民の中から除かれなければならない。5 それでイスラエル人は、今は野原でほふっている犠牲をエホバのもとに、会見の天幕の入り口の祭司の所に持ってくる。民はそれをエホバへの共食の犠牲として犠牲にする。6 祭司はその血を、会見の天幕の入り口にあるエホバの祭壇に振り掛け、脂肪を焼いて煙にする。それはエホバにとって心地よい香りとなる。8, 9 また、こう言いなさい。『イスラエルの民や、あなたたちの間に住んでいる外国人の誰かが、全焼の捧げ物や何らかの犠牲を捧げながら、9 エホバに捧げるためにそれを会見の天幕の入り口に持ってこないなら、その人は民の中から除かれなければならない) この変更のせいで、コラやダタンやアビラムや 250 人の長たちは、モーセやアロンの権威に逆らったのかも かもしれません。(民 16:1-3 レビの子コハトの子であるイツハルの子コラが、エリアブの子であるダタンとアビラム、およびペレトの子オン、すなわちルベンの子孫と共に立ち上がった。2 その人たちは、イスラエル人男性 250 人と共にモーセに対して立ち上がった。民の長で、会衆の選ばれた著名な人たちである。3 モーセとアロンに逆らって集結し、こう言った。「あなたたちにはもううんざりだ。民全体、その全員が聖なる人で、エホバはその中にいるのだ。それなのに、どうしてエホバの会衆の上に立とうとするのか」) 確かなことは分かりませんが、いずれにせよ、コラたちはエホバへの信頼を示し続けませんでした。私たちも、組織の中での変更によってエホバや組織への信頼を試されることがあるかもしれません。そのような場合、どんなことができるのでしょうか。



コハト氏族の人たちは務めの変更を受け入れ、歌い手、門番、倉庫を担当する人として喜んで奉仕した。(11 節を参照。)

11. レビ族のコハト氏族の人たちの手本からどんなことを学べますか。

11 **組織の中での変更を心から支持する。** 古代イスラエルが**荒野を旅**していた時、**コハト氏族**の人たちは**特別な務めを与えられていました**。**宿営が移動**するたびに、**コハト氏族の人たちが契約の箱を運び、民の前を行**きました。（民 3:29 コハトの子たちの氏族は幕屋の南側に宿営した、31 コハト氏族が担当したのは、証しの箱、食卓、ランプ台、2つの祭壇、聖なる場所での奉仕に使う器具、間仕切りの幕、および関係する種々の奉仕である、10:33 こうしてエホバの山から出発し、3日間の旅をした。エホバの契約の箱は3日の旅の間、民の前を行き、民の休み場所を探した。ヨシュ 3:2-4 3日後、役人たちは宿営中を巡り、3民にこう命じた。「皆さんの神エホバの契約の箱をレビ族の祭司が運んでいるのを見たら、すぐ自分の場所から出発して、その後に続きなさい。4 ただし、箱との間に約1キロの距離を置き、それ以上近寄ってはなりません。どの道に行くべきかを知るためです。これまでに通ったことがない道だからです」）それは**とても素晴らしい務め**でした。しかし、**イスラエルが約束の地に住む**ようになると、**事情は変わり**ました。契約の箱をあちこちと運ぶ必要はなくなりました。**ソロモンの時代**には、**コハト氏族**の人たちは**歌い手**や**門番の務め**を与えられていました。**倉庫を担当**した人たちもいました。（代一 6:31-33 以下は、箱が置かれた後、エホバの家で**歌の指導をさせるためにダビデが任命**した人たちである。32 彼らは、ソロモンがエルサレムにエホバの家を建てるまでの間、会見の天幕(*)である幕屋での**歌を担当し、規定された奉仕をした**。33 この奉仕を子たちと共にした人は次の通りである。コハト氏族の歌い手ヘマン。ヘマンの父はヨエルで、順にさかのぼると、サムエル、26:1 門番の組については以下の通りである。コラ氏族では、アサフの子の1人コレの子メシェレムヤ、24 モーゼの子ゲルショムの子シェブエルが倉庫を担当する責任者だった）それでも、コハト氏族の人たちが**不平を言**ったとか、**先祖のような目立つ仕事を要求**した、という**記録は**ありません。どんなことを学べますか。**エホバの組織の中での変更が生**じた場合、それが**自分に影響**を及ぼすものだとしても、**心から支持**するようにしましょう。**どんな務め**を与えられても、**喜んで果**たしましょう。**与えられる務めによって人の価値が決まるわけでは**ない、ということを忘れないでください。私たちが**エホバと組織に従う**ことは、**エホバにとって何よりも価値がある**ことなのです。（サム一 15:22 サムエルは言った。「エホバの言うことに従うよりも、動物を焼いて捧げた方が、エホバは喜んでくださるのでしょうか。いいですか。**犠牲よりも、従うことが重要であり、雄羊の脂肪よりも、注意を払うことが重要**なのです」）

12. ザイーナ姉妹は、ベテルから野外に戻ることになった時、どう感じましたか。

12 中東の**ザイーナ姉妹**のことを考えてみましょう。姉妹は、**23年余りベテルで奉仕**していましたが、割り当ての変更の知らせを受けました。**野外に戻る**ことになり、**大切にしていたベテル奉仕ができな**くなりました。姉妹はこう言っています。「**すごくショック**でした。『自分は**役立たず**なんだ』と感じ、『**何か悪いことをしたのだろうか**』という**思いが頭から離れませ**んでした」。残念なことに、**会衆のある人たちからも**、「**ちゃんとやってい**れば、**ベテルに残れたんじや**ないの？」と言われました。それで、姉妹はとても傷ついてがっかりし、**しばらくの間は毎晩泣**いていました。それでも、姉妹はこう言っています。「**組織とエホバの愛を疑う**ことは**絶対にしな**い、と思いました」。では、**どのようにして冷静さを保**ったのでしょうか。

13. ザイーナ姉妹は、良くない感情を乗り越えるためにどんなことをしましたか。

13 ザイーナ姉妹は、良くない感情を乗り越えることができました。どのようにでしょうか。出版物を調べ、自分が経験しているのと同じような問題を扱った記事を読んだのです。特に、「ものみの塔」2001年2月1日号の「落胆しても立ち直れます！」という記事がとても役に立ちました。その記事には、聖書筆者のマルコが割り当ての変更を経験して、同じような気持ちと闘ったかもしれない、ということが述べられています。ザイーナ姉妹はこう言っています。「マルコの手本は、がっかりした気持ちを乗り越える上でまさに私が必要としていたものでした」。また姉妹は、孤立したり自分を哀れに思ったりするのではなく、友たちと一緒に時間を過ごすようにしました。姉妹は、エホバの聖なる力が組織を通して働いていることや、教え導いている兄弟たちが深く気遣ってくれていることに気付きました。そして、エホバのための活動を前進させることが組織にとって一番大事なことなのだ、ということにも気付きました。

14. ブラド兄弟は、①どんな変更に応じることをつらく感じましたか。②何が助けになりましたか。

14 ①ブラド兄弟は、スロベニアに住む73歳の長老です。兄弟は、自分の会衆と他の会衆が統合されて、使っていた王国会館が閉鎖されることになり、つらく感じました。こう言っています。「あの美しい王国会館がなぜ閉鎖されるのか、理解できませんでした。最近改装したばかりだったので、なおのことショックでした。大工の私は、新しい備品も作ったんです。それに、統合に伴っていろいろな調整が求められますが、私のような年配の者たちにとっては、付いていくのが大変です」。②それでも、兄弟は決定を支持しました。何が助けになったのでしょうか。こう言っています。「エホバの組織が決めた変更に応じるなら、必ず祝福されます。そうすることは、将来のもっと大きな変更私たちに備えさせるものとなります」。あなたも会衆の統合や割り当ての変更を経験して、つらい思いをしていますか。エホバはあなたの気持ちをよく分かってくださっています。決定を支持し、エホバと組織を心から信頼し続けるなら、必ず祝福を味わえます。
(詩18:25 あなたは、揺るぎない愛を示す人に、揺るぎない愛を示す。誠実な人に誠実である(*非難されるところがない人には、非難されるところがない行いをする))

どんな場合にも冷静さを保つ

15. 会衆内で問題が生じる時、どうすれば冷静さを保てますか。

15 この体制の終わりが近づくにつれ、会衆内でもさまざまな問題が生じることでしょう。そうした問題は、エホバに対する私たちの信頼を試すものとなるかもしれません。ですから、冷静さを保つ必要があります。①仲間のクリスチャンから傷つけられたと感じるとしても、腹を立てないようにしましょう。②矯正を受けた時には、恥ずかしい気持ちにとらわれるのではなく、それを受け入れ、改善しましょう。③また、エホバの組織の中での変更が自分に影響を及ぼすとしても、心から受け入れ、指示に従いましょう。

16. どうすればエホバと組織を信頼し続けることができますか。

16 問題が生じてても、エホバと組織を信頼し続けることは可能です。でも、そのためには冷静さを保つ必要があります。穏やかでいること、物事を筋道立てて考えること、エホバと同じ見方をすることが必要なのです。私たちと同じような問題乗り越えた聖書中の人物の手本について学び、じっくり考えましょう。助けを求めてエホバに祈ってください。会衆から決して遠ざかってはいけません。こうした努力をするなら、どんな問題が生じてても、サタンが私たちをエホバと組織から引き離すことはできないでしょう。（ヤコ 4:7 ですから、神に従ってください。悪魔に立ち向かってください。そうすれば、悪魔は逃げ去ります）

どうすればエホバと組織を信頼し続けることができますか

1. 仲間のクリスチャンから傷つけられたと感じる時

- ・S04 腹を立ててはいけない。ヨセフは、物事を筋道立てて考えていた。ヨセフは自分のつらい状況のことばかり考えるのではなく、エホバがどんなことを望んでいるのかについてよく考えた。私達もつらい状況の中でエホバがどのように助けてくださっているかを考えるようにし、仲間の不完全さを愛で覆うようにする。
- ・S05 ミケイアス兄弟は冷静さを保ち、感情に流されないようにし、聖なる力や忍耐するための力を求めて、何度も何度もエホバに祈った。そして、出版物を調べて、助けになりそうな資料を探した。私たちも兄弟姉妹からひどいことをされたと感じても、穏やかでいるようにし、良くない考え方に負けないようにする。洞察力を働かせ、相手の立場に立って考えられるように助けてくださいと祈れる。エホバは私たちの状況をよくご存じで、忍耐できるようにしてくださる。

2. 矯正を受けた時

- ・S06 エホバが愛の気持ちから矯正を与えてくださっていることを忘れない。感情に流されるままにせず、付け込む隙をサタンに与えない。
- ・S07 矯正を受け入れ、改善する。矯正を受けた時には、恥ずかしい気持ちにとらわれるのではなく、それを受け入れ、改善する
- ・S08-09 長老として奉仕する機会を失ったベルナルド兄弟は、聖書を読んでじっくり考える時間を増やし、仲間と一緒に伝道し、集会でコメントするようにした。やがて兄弟は再び長老に任命された。

3. 組織の中での変更に応じることをつらく感じる時

- ・S11 組織の中での変更を心から支持する。コハト氏族の人たちは、契約の箱を運び、民の前に行くという重要な務めの変更を受け入れ、歌い手、門番、倉庫を担当する人として喜んで奉仕した。不平を言ったとか、目立つ仕事を要求した、という記録はない。
- ・S12-13 23 年余りベテルで奉仕から野外に戻ることになりショックを受けたザイーナ姉妹は、出版物を調べ、自分が経験しているのと同じような問題を扱った記事を読んだのです。特に、聖書筆者のマルコが割当ての変更を経験して、同じような気持ちと闘ったかもしれないことを知った。孤立したり自分を哀れに思ったりするのではなく、友たちと一緒に時間を過ごすようにした。姉妹は、エホバの聖なる力が組織を通して働いていることや、教え導いている兄弟たちが深く気遣ってくれていること、そして、エホバのための活動を前進させることが組織にとって一番大事なことなのだ、ということにも気付いた。

126 番の歌 目を覚ましていて、しっかり立ち、強い人になる